

ESGとSDGsの関係性を説明するマトリックス の効果検証 —新たなサステナビリティ・マネジメントへの 提言—

笹谷 秀光

正会員 社会情報大学院大学 (〒168-8518 東京都新宿区高田馬場1-25-30)

E-mail: sasaya@csrsdg.com

サステナビリティを踏まえた企業戦略が求められる中で、世界標準化機構（ISO）が2010年に発行した「社会的責任の手引」（ISO26000）が指針を提供している。その後2015年に国連で採択された「持続可能な開発目標」（Sustainable Development Goals : SDGs）が2030年に向けた持続可能な社会への目標を提示し、一方でESG投資の動きが加速している。SDGsおよびESGについては先行研究があるが相互の関係性の分析は限られている。そこで、本稿では、ISO26000を活用してESGとSDGsの関係性を考察し、ESG投資家にもSDGsにも対応しうる方法として示されてきたISO26000活用のESG/SDGsマトリックスについて、事例により効果検証を行う。

Key Words : ESG, SDGs, ISO26000, CSR

1. はじめに

(1) 背景

企業は、ICTの進化、グローバル化など内外の激しい変化の中で変革が求められ、特にサステナビリティを念頭に置いた経営戦略が必須の課題となっている。サステナビリティについては、ISOにより組織の社会的責任に関し国際規格として決定された2010年発行の「社会的責任の手引」（ISO26000）が企業を含め組織が果たすべき社会的責任についてガイダンスを示し、企業の社会的責任（CSR: Corporate Social Responsibility）の羅針盤となっている。その後、2015年に国連サミットで採択された文書”Transforming our world: the 2030 agenda for sustainable development”¹（「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」²（外務省仮訳）の中で示された”Sustainable Development Goals : SDGs”（持続可能な開発目標）は、現下の社会課題を網羅的に提示し2030年までの持続可能な社会づくりの目標を示した。一方、この間、環境（Environment）、社会（Social）、企業統治（Governance）への配慮要請が投資家の間で高まり、投資家はESGの各要素の判断にあたり事業会社のSDGsへの貢献度を一つの指標として使い、ESGとSDGsが関連

づけられている。このような中で、企業は的確なサステナビリティ・マネジメントを再構築する必要がある。

(2) 問題の所在と先行研究

ESGについては、投資家サイドにおいても事業会社サイドにおいても、E、S、Gそれぞれについて何を具体的項目とすべきか、ESGとSDGsをどう具体的に関連づけるかについて統一的な指針が今のところ存在しない。このため、企業現場ではESG対応とSDGs対応の両面で混乱が見られる状況にある。

また、この両者の関連付けについて分析した先行研究は高岡（2015）³が示した、ISO26000に基づくCSRは網羅的な課題に対処するのでSDGsに大きく寄与できるという関係性の指摘に限られている。

(3) 本稿での研究の方法

そこで、本稿では、この先行研究も参照しつつ、研究の方法としてISO26000を活用した次のような分析と方法を用いる。ISO26000を活用する理由は、2010年発行以降すでに9年経ち、デファクトスタンダード化が進み、企業活力研究所⁴の調査が示す通り、日本では普及率が高いからである。

第一に、社会的責任のガイダンスであるISO26000を活用して、ISO26000とESG およびISO26000とSDGsの関連性について考察する。

第二に、ISO26000、ESG、SDGsの三者の関係性を整理し、的確なサステナビリティ・マネジメントのための方法を示す。

第三に、ISO26000を活用して、ESG投資家にも訴求でき幅広いステークホルダーに対してもSDGs対応を示しうる方法として先行研究で示されたESGとSDGsの関連整理をねらいとするESG/SDGsマトリックス⁵⁾について、本稿では、サステナビリティ・マネジメントの視点から深化させるとともに、このマトリックスを活用した企業事例を分析しその効果の実証を行う。

2. サステナビリティ・マネジメントの重要性

本節では現在求められているサステナビリティについて考えるため、基本となる社会的責任のガイダンスであるISO26000をはじめとして、ESGの最新の動きおよびSDGsの内容と日本での浸透状況について考察する。

- (1) ISO26000「社会的責任の手引」の特徴
- (2) 「伊藤レポート2.0」で重視された ESGとサステナビリティ・マネジメント
- (3) ESG投資の加速とGPIF

(4) 日本政府のSDGs推進 (SDGsについては図を参照)

(5) ISO26000をベースとした非財務情報の統合化

3. ESG、SDGsとISO26000

(1) ESGとISO26000

SDGsについて、日本では投資サイドがけん引し、経済界ではESGと裏腹の関係でSDGsが話題になっているのが現下の特徴である。このような中で、現在、ESGの具体的な項目立てについては、投資関係者にESGデータを提供している調査会社により異なっている。

そこで、ESGについて、国際合意のあるISO26000の7つの中核主題との関連で整理してみると有益である。2010年発行の世界標準の規格に基づく体系を活用しつつ最新のESG対応の体系を整えることができる。すでにこれまでISO26000を活用してCSRの体系を整えてきた企業にとっては効率的な作業である。

(2) 「ISO26000活用ESG/SDGsマトリックス」

この整理に加え、現在はSDGsとの関連づけの作業が加わったので、ISO26000に対応したESGの整理を行ったうえで、これにSDGsへの取り組みを加味する。

ESGについてISO26000の7つの中核主題に即して整理した項目を縦軸に置き、SDGsの17目標を横軸に置いて整理するマトリックスを作成する。このマトリックスでは、縦軸はESGの対応項目であり、投資家がチェックする内容となっている。そのうえでESGの各項目が遂行され

SDGsの17目標 (出典:環境省の整理をもとに筆者が加工した)

目標1. 貧困の撲滅
目標2. 飢餓撲滅、食料安全保障、栄養改善、持続可能な農業
目標3. 健康・福祉
目標4. 質の高い教育、生涯学習
目標5. ジェンダー平等
目標6. 水・衛生の利用可能性
目標7. エネルギーへのアクセス
目標8. 包摂的で持続可能な経済成長、雇用
目標9. 強靱なインフラ、工業化・イノベーション
目標10. 国内と国家間の不平等の是正
目標11. 持続可能なまちづくり
目標12. つくる責任、つかう責任
目標13. 気候変動への対処
目標14. 海洋と海洋資源の保全・持続可能な利用
目標15. 陸域生態系、森林管理、生物多様性
目標16. 平和と公正性
目標17. 実施手段の強化とパートナーシップ

SDGs
国連加盟193か国が 2016年～2030年の15 年間で達成するために 掲げた目標
17目標 169ターゲット 230指標

図 SDGsの17目標の概要 (筆者作成)

ば、どのSDGs目標に寄与するかをマッピングしていく。マッピングにあたり、大きく貢献する項目には●、間接的に関係するものには○をつけるなどのウエイト付けを行う。これにより、ESG関連の非財務活動がどのSDGsの目標に寄与しているかが一目でわかる⁵⁾。このマトリックスを企業や業界の特色に応じて作成し、SDGsとESGの整理を開示して投資家とも対話していくことになる。

4. 「ISO26000活用ESG /SDGsマトリックス」の活用事例からみた効果の検証

本節では、このマトリックスについて実際の活用事例から、サステナビリティ・マネジメントへの効果を検証する。

経済産業省の「SDGs経営/ESG投資研究会」では、SDGsをESGとの関連で整理し、SDGs経営を推進するための検討を行ったが、事務局説明資料でこのマトリックスが政策形成の参考になった⁶⁾。この研究会では「SDGs経営ガイド」を取りまとめ発出したので、これを受けてSDGs経営がますます浸透していくことが予想される。

(1) ISO26000活用ESG /SDGsマトリックスの活用事例

このマトリックスを採用してESG/SDGsの関係を整理して発信する企業が増えているので、企業の事例分析を行う。事例は伊藤園、グンゼ、セイコーエプソンなどを選定する。

(2) サステナビリティ・マネジメントへの効果

上記企業はいずれもSDGsを経営に生かし、関係者に効果的に発信しようとしている企業であり、ISO26000活用ESG/SDGsマトリックスを活用したサステナビリティ・マネジメント体系が構築されていることを明らかにする。

結論

ISO26000活用ESG/SDGsマトリックスにより、非財務情報であるSDGsとESGについて非財務情報を統合化して示していくことができる。事例で取り上げた各社ともマテリアリティとの関連性で重点的な発信が行うことができ、ESG投資家に向けての発信のみならず、SDGsの対処に関しても、発信効果が生まれていることを明らか

にする。

本稿で述べたマトリックスの実際の活用事例が増えているが、これらはいずれも、SDGsを活用したSDGs経営を推進している事例である。筆者としては、このような企業がこのマトリックスを活用しサステナビリティ・マネジメントの効果を上げている状況を見た他社にも波及することにより、冒頭で指摘したSDGsとESGの混乱を収斂させるうえで役立つと考える。

今後、このマトリックスを活用した対外発信が進んでいく場合には、SDGsへの貢献に関してより数値的な指標を求められることになるであろう。すでにSDGsで示されている230の指標のみならず、各企業にとっての指標をどのように設定していくべきかが今後の課題である。

参考文献

- [1] United Nations:” Transforming our world: the 2030 agenda for sustainable development”, 70th session of the United Nations General Assembly; 2015.9.25; New York. New York: UN; 2015 (Resolution A/RES/70/1) , <http://www.un.org/ga/search/view_doc.asp?symbol=A/RES/70/1&Lang=E>, 1/5/2019 referred.
- [2] “我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ”（外務省仮訳）, <<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000101402.pdf>>, 2019. 5. 1 参照
- [3] 高岡 伸行：“ポストMDGsとしてのSDGsへのCSRアプローチ：ISO26000のCSR経営観の含意”，経済理論，No.381,pp.103-125,2015.
- [4] 企業活力研究所：“平成25年度調査研究事業：企業の社会的責任に関する国際規格の適切な活用のあり方についての調査研究報告書（概要版）”2014
- [5] 笹谷秀光：“持続可能性新時代におけるグローバル競争戦略—SDGs活用による新たな価値創造—”，第70回 全国能率大会懸賞論文（2019） <<https://www.zen-noh-ren.or.jp/conference/article-list/>>2019. 6. 1 参照
笹谷秀光 “経営に生かすSDGs講座 —持続可能な経営のために—（環境新聞ブックレットシリーズ14）” 環境新聞社、2018
- [6] “経済産業省ホームページ”，
2018年11月26日、資料5 事務局説明資料 <https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/sdgs_esg/001.html> 2019.6.1 参照

2018年?月?日 受稿

2018年?月?日 受理

VERIFICATION OF THE EFFECT OF NON-FINANCIAL INFORMATION
TRANSMISSION BY " ESG / SDGs MATRIX "
-PROPOSAL FOR EFFECTIVE SUSTAINABILITY MANAGEMENT-

Hidemitsu SASAYA

In corporate management, there is a need for speedy corporate transformation in the face of fierce internal and external changes and, in particular, a management strategy with sustainability in mind is an essential issue. Under such circumstances, the Guidance on Social Responsibility (ISO 26000) issued by the World Organization for Standardization (ISO) in 2010 provides comprehensive guidance on Corporate Social Responsibility. For dealing with current social issues, the "Sustainable Development Goals (SDGs)" adopted by the United Nations in 2015 is useful. On the other hand, the movement of various parties that require companies to consider ESG (Environment, Social, and Governance) is accelerating, especially from investors.

Companies are required to have effective sustainability management that responds to these developments. Although there are precedent studies for SDGs and ESG, there is limited analysis of mutual relationships. Therefore, in this paper, we use ISO 26000 to organize the relationship between ESG and SDGs, and present a method that can be appealed to ESG investors and that can be used for a wide range of stakeholders as an "ESG/SDGs matrix model utilizing ISO26000". In this way, we propose the way of effective sustainability management for companies that want to put SDGs into management.